

集落元気づくりワークショップ開催報告

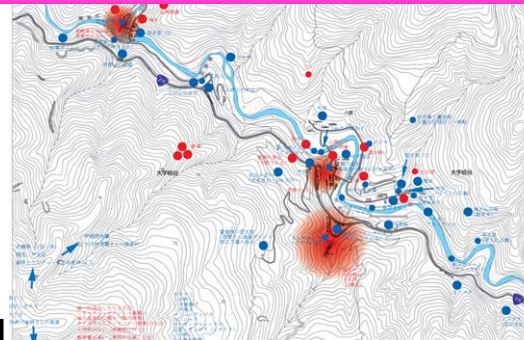
1 ワークショップの開催概要

- 平成21年2月～3月にかけて、宮崎県児湯郡西米良村にて3回のワークショップを開催し、集落元気づくりの策定を行った。
- 参加者は各回とも30名程度であった。

平成21年2月10日(火)

第1回 現状の問題を見てみよう

世帯毎の家族構成・後継者(他出者含む)や集落の資源を把握することで集落の現状を共有 (参加者数29名)



集落の不安と資源把握
(ガリバーマップ作成)

平成21年2月27日(金)

第2回 自分たちの10年後を考えてみよう

10年後の集落の姿を考え、集落の問題・課題の抽出と取組の話し合い (参加者数25名)



4つのプロジェクト立案
(取組の方向性検討)

平成21年3月9日(月)

第3回 集落の未来について語ろう

集落の問題・課題を解決するための集落元気づくりの具体化 (参加者数31名)



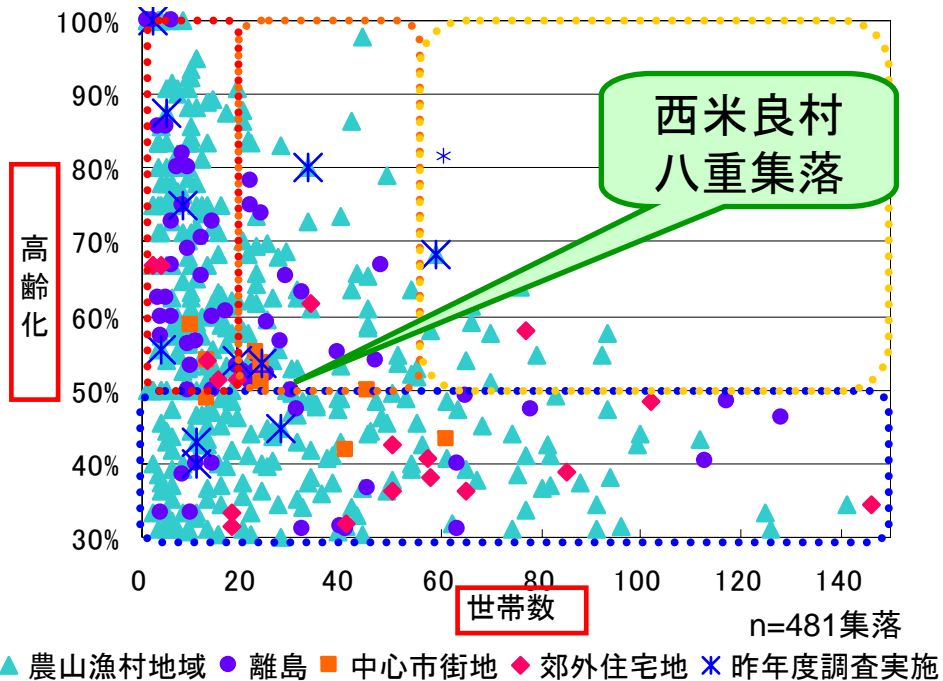
実現に向けた役割分担
(全体での合意形成)

2 八重集落の集落元気づくり

ワークショップ対象集落の抽出（第2回検討委員会）

①対象集落の抽出

世帯規模・高齢化実態等の条件から典型的な小規模高齢化集落を抽出(第2回委員会)。



自治体実感
存続が危ぶまれる集落
(平成19年度アンケート調査)

客観的指標
高齢化率: 概ね30%以上
世帯数: 概ね150世帯以下

**典型的な
小規模・高齢化集落**
(アンケート調査対象集落)
481集落(135自治体)

結果

○集落元気づくりの実現を見据え、典型的な小規模高齢化集落の中から、世帯規模30世帯以上の集落を対象集落として抽出した。

課題等

○集落抽出には、地元自治体の担当職員からの情報把握も含め、多くの時間を要した。
○定量的な統計データのみでは得られない集落実態の把握が不可欠である。
○対象集落の抽出は集落元気づくりに取組ことのできる規模の集落を選定しており、より厳しい条件の集落(世帯数が小さく、高齢化が進んでいるところ)もあることから、今後調査が必要。

2 八重集落の集落元気づくり

【第0段階】事前準備（参加の場の創出）（その1）

①住民への参加の呼びかけ

- 八重集落のワークショップ開催にあたり、集落在住の役場職員の協力も得て、住民に参加を呼びかけた。



WSのコーディネートを依頼した牧氏

住民への参加の呼びかけやグループ分けは八重集落住民、Iターン者、村役場職員の牧氏に依頼した効果は大きかった。

②区長への挨拶と予備調査

- 八重集落でワークショップを開催する準備。



活性化センターの写真

- ・八重集落の中心にある集落活性化センター。ここで3回のワークショップが開催された。
- ・集落でのWS開催にむけた準備のため、区長への挨拶と集落全体の実態を把握するための予備調査を実施した。

結果

- 集落を熟知している役場職員の協力が、ワークショップ成功要因の一つと考えられる。
- ワークショップへは九州地方整備局、宮崎県、西米良村や学生など、外部からの視点でも意見を提供し、話し合いの手助けとなった。

【代表的な感想】

- ・自分にとってあたりまえの事が問われた事によって考え、説明しているうちに改めて分かった。（無記名）
- ・まず、ワークショップを知らなかったので理解できて良かった。スタッフの方が多くて驚いたが、スムーズに進んで、地区の為にやってもらっているのがありがたかった。（40代女性）
- ・水害にあつてから地区活動が億劫になっていたので、今日の時間は水害に遭う前の地区活動の楽しかった頃を思い出しました。（30代女性）

結果

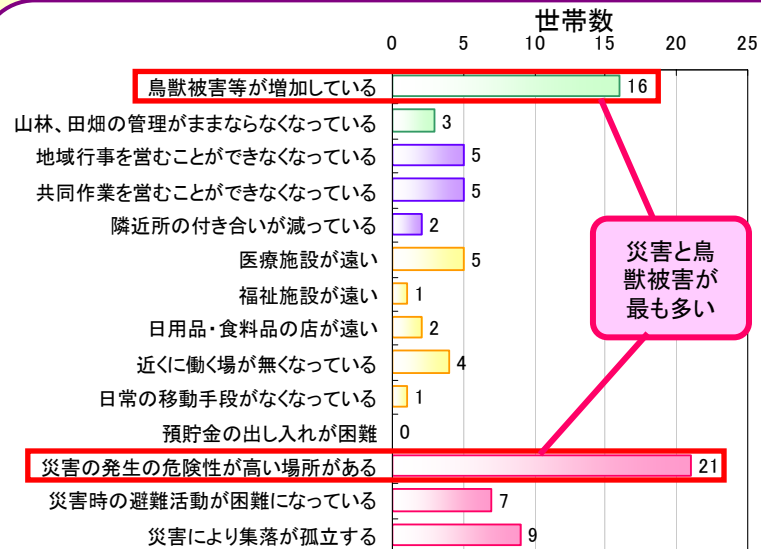
- ワークショップ前に、外部者であるワークショップ主催者が地元区長に挨拶に行き、集落の概要を把握することにより面識を得られたことが、ワークショップを円滑に進める上で有効であった。
- ワークショップ開催地を集落内にすることで、参加者は3回とも多数を確保できた。

2 八重集落の集落元気づくり

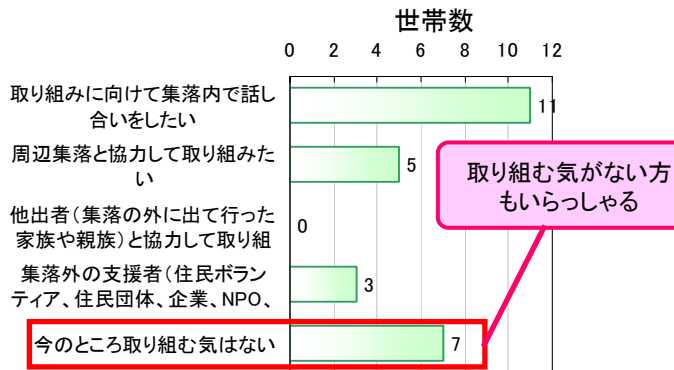
【第0段階】事前準備（参加の場の創出）（その2）

③全世帯アンケート調査

○統計には表れない世帯毎の世代構成(他出者含む)や生活における不安等の把握。



居住を継続する上での不安(八重集落)



集落元気づくりへの意向(八重集落)

結果

- 事前の全世帯アンケート調査では、統計では得られない世帯毎の人員や年齢構成の実数、他出者の数などが得られた。
- 災害への不安と、鳥獣被害への不安が突出した結果を得られるなど事前の全世帯アンケートの実施により、ワークショップでの話題提供が出来たこともワークショップ成功の要因であった。
- 事前の全世帯アンケート調査では、集落元気づくりに「取り組む気はない」との意見があった(全体の約3割程度)。

2 八重集落の集落元気づくり

【第1段階】気付きの誘発（第1回ワークショップ）（その1）

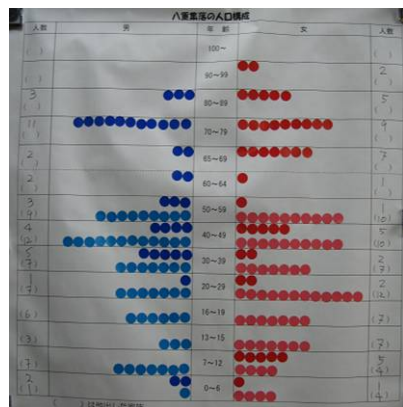
①グループ分け

○発言のしやすさに留意し、集落在住の役場職員の方の助言を得て、年代別にグループを分けた。



②現在と将来の人口構成は？

○後継者世代が他出、70代居住者が最も多い現状。



- ・八重集落人口は73名で、他出者を含めると186名になる。
- ・40歳代～50歳代の居住者が、昔、進学や就職で他出し、その結果、その子世代にあたる10歳代から20歳代が集落には少ない状況にある。
- ・60歳代は居住者と他出者共に少ないが、70歳代は多く居住している。

地区の人口構成図(他出者含む)

結果

○昔を回顧するグループ、同じ年代での悩みなど、同年代でのグループ分けにより、話し合いのしやすい雰囲気生まれた。

【代表的な感想】

- ・今の八重地区の現状が改めて見え、新たな発見・再確認する事が多かったです。(30代女性)
- ・年代別に分かれて話し合う場はなかなか取れないので、話し合ってみて、皆さん色々な事を思っていることが分かり、楽しかったです。(40代女性)
- ・年代別に分かれてのグループで、若い人、高齢の人の見ている所がほぼ同じかなと思いました。(無記名)
- ・若い人の気付いている事が少し分かったような気がしません。(60代女性)
- ・若い世代は知らない事を聞けて、興味・関心が高まった。(30代男性)

結果

○高齢者が多いことはもちろんのこと、50代が抜けてしまっていることなど、集落の現実を視覚的に認識できた。

【代表的な感想】

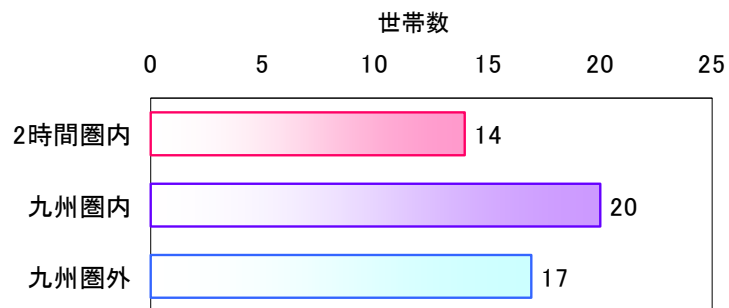
- ・人口ピラミッドにより集落の事が分かった。(30代男性)
- ・子育て、仕事に多忙な30、40代にとって、子育てを終えて、集落活動のリーダー役となる50代がいなかったことがよく分かった。(40代男性)

2 八重集落の集落元気づくり

【第1段階】気付きの誘発（第1回ワークショップ）（その2）

③集落の他出者の実態

○事前アンケート調査により把握された集落の他出の集計結果をワークショップで紹介した。



八重集落の他出世帯の居住地

結果

○自分たちの集落の10年後の将来を考えたときに、人口構成において、集中的に他出した世代が明らかになる。

【代表的な感想】

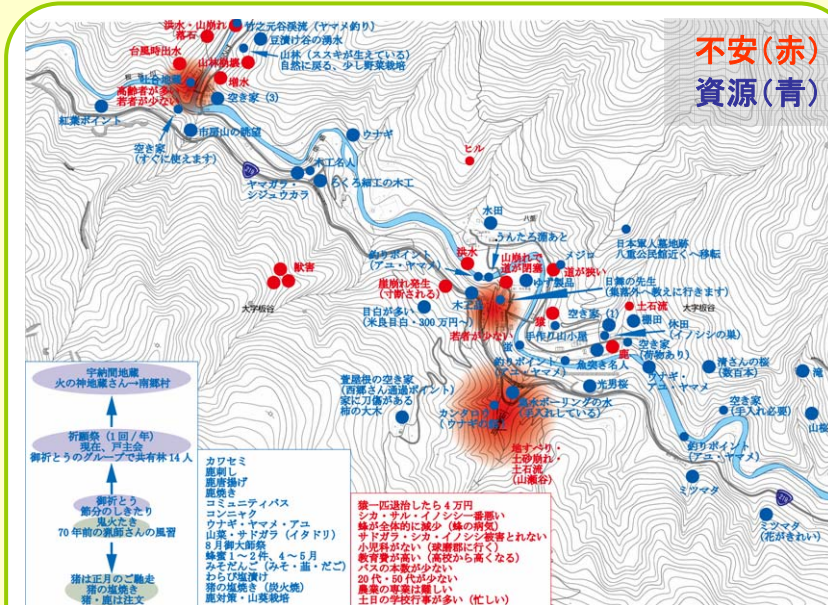
・他出者が特に多い世代は仕事が無く、戻ってくることが出来なかったから。こうして改めてみるとたくさん的人がでて行ったことを痛感する。(70代男性)

2 八重集落の集落元気づくり

【第1段階】気付きの誘発（第1回ワークショップ）（その3）

④集落の不安と資源

○住民と外部参加者の共同作業により、暮らしの不安と資源を地図に記載。



出された主なキーワード

不安

鹿・猿・イノシシによる獣害、山崩れ、土石流、落石、増水、小児科の遠さ、高校からの教育費負担

資源

ミツマタ、光男さくら、山菜、蜂蜜、寒蘭、ヤマメ、鮎、山桜、紅葉、藤の花、オオムラサキ、メジロ、御大師堂、吐合地蔵、西郷隆盛伝説、豆漬け谷の湧水、星空、棚田、滝、猪肉、鹿刺し、鹿唐揚げ、鹿焼、味噌団子

結果

○資源や不安の視覚化によって、分かりやすく、参加者が、その情報を共有することができた。

【代表的な感想】

・地図を使った事で、場所も分かりやすかった。(30代男性)

○高齢者グループからは、数は少ないが誰も知らない祭りの楽しかった記憶や清水の場所、若者グループは多くの資源が抽出された。

【代表的な感想】

・昔やっていたお祭りなどで話がはずんだ。(30代男性)

○不安はたくさん出されたが、資源は外部参加者との共同作業により、住民が気づかなかった資源が発見された。

【代表的な感想】

・うまく資源が引き出されることで、新たな発見があった。(40代男性)

○集落の事を改めて見つめ直すことにより、集落元気づくりへの糸口となる感想が得られた。

【代表的な感想】

・水害にあってから、地区活動が億劫になっていたのが、今日の時間は水害に遭う前の地区活動の楽しかった頃を思い出しました。ありがとうございました。(30代女性)

課題等

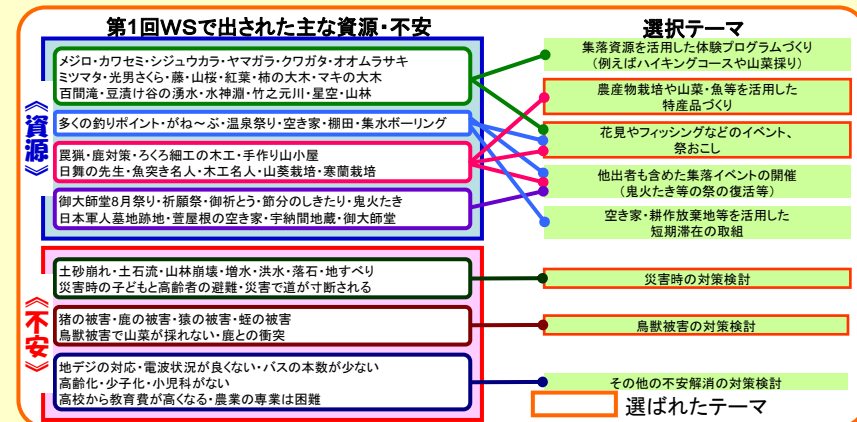
○子供たちが高校生になると村外に出てしまい、教育費負担が重く、暮らしに精一杯といった切実な声が聞かれる等、子供の教育や医療、公共交通の不足への“対応や支援”を今後検討していくことが必要である。

2 八重集落の集落元気づくり

【第2段階】集落元気づくりの方向性（第2回ワークショップ）（その1）

①参加者が希望する集落元気づくりテーマ

○話し合いたいことを話していただくため、参加者が議論したい4つのテーマについてグループ分け。



結果

○参加者に「やりたいこと」を選択していただいたことで、話し合いへの参加意欲が向上した。

【代表的な感想】

・自分がこれならやれそうな事とか、こんな物を作ってみたいとか意欲が出て来ました。(50代女性)

課題等

○テーマへの希望者でグループ分けをしたが、年配者や男性からの意見が強く、若い人や女性などからの発言が少なくなってしまうところも見受けられた。そのためグループ内での話し合いの進行において配慮が必要である。

②先行事例の紹介による情報の提供

○話し合いの流れの中で必要に応じて先行事例を紹介。

○「集落資源を発掘」「不安要素を資源へ転換」「災害不安を軽減」させた事例を適時紹介



栗山集落(宇佐市)
米を活かした
オリジナルブランド
焼酎「余谷物語」



宮浦集落(基山町)
伐採した竹を用いた
茶室づくり



菅集落(山都町)
コミュニティバスを
利用した避難訓練

結果

○話し合いの中で適宜先行事例を紹介することにより、新たなアイデアが生まれ、議論が活発化した。

課題等

○先行事例を紹介しても参加者が既に実行しているものもあり、その限界を知っていた。
先行事例の紹介にあたっては導入に至った経緯やその後の過程、工夫等についても紹介する必要である。

2 八重集落の集落元気づくり

【第2段階】 企画された4つのプロジェクト（第2回ワークショップ）

③プロジェクト立案

「MADE IN そこらへん」

～ミツマタ・キヨシの花だらけ村～
○獣害が多い八重で、獣害を受けない作物を作っていた先人の知恵を参考に特産品を作る。

- ・ミツマタで新たな季節の彩りを加える
- ・ミツマタを使って、紙の生産を復活させる
- ・茶の実からとれる油を採取して商品化
- ・カヅラを使ったクリスマスリース作り
- ・草木染め



ミツマタの花
ミツマタを活用した
地域特産品開発

「八重夜桜まつり」

～先ず地元→村内→村外～

○台風災害から寄り合いが減り、集落のみんなで楽しむことがなくなった。

- ・ミツマタで光男さくらに彩りを与える
- ・花見でバーベキューがしたい
- ・夜桜を楽しむためにライトアップ
- ・イベントスペースの確保



光男さくらを活かした
イベント開催

「災害に負けない八重地区」

～みんな進んでニコニコ避難清光さんと一緒～
○平成16年に台風が八重を襲い、甚大な被害をもたらした。その時、集落で一体的な行動がとれなかった。

- ・避難者リストの作成・更新
- ・消防団の定年延期
- ・食料備蓄
- ・避難時の声かけ、避難訓練の実施



集落の一体的避難行動

「我が家の猟師さんで昔の村を取り戻そう」

～シカ・サル・イノシシの撲滅～

○八重では鹿、猿、イノシシによる被害が多く、主に造林地や畑で起こっており、抜本的な解決策が無く困っている。

- ・住民の狩猟免許取得で鳥獣撲滅
- ・捕獲した食肉を資源化→特産品化
- ・その他の動物の活用



鹿に皮を食べられたヒノキ
猟師育成による獣害対策

結果

○身近な資源の活用を皆で考えることで、新たな取組の実現性を語るができる。

【代表的な感想】「MADE IN そこらへん」

- ・ミツマタ栽培を、観光産業として本気で考えています。村民全体で考えて努力すれば、4～5年で完成する。(70代男性)
- ・1人で考えるより、皆で意見を出し合うと、色々つながって幅が広がるんだと思いました。普段会う地区の方達の新たな一面に気付かされる事があります。(30代女性)

○先ずは自分たちで楽しむこと、身の丈にあった提案がプロジェクトの実現可能性を高めるものとなる。

【代表的な感想】「八重夜桜まつり」

- ・まずは、あらゆるものを使って、地元で楽しむ事から始められるという事もあり、子育てで忙しい日々の今でも出来そうな気がしました。(30代女性)

○過去の災害をふりかえり、風化させないための取組を集落が一体となって行う。それが集落の結束力へとつながる。

【代表的な感想】「災害に負けない八重地区」

- ・八重で生活する上で、災害に負けない心が必要。災害にいつあってもいいように、家内でも話し合いをしたい。(30代女性)

○1人の強い思いを引き出し、共感を呼ぶことで、集団の力へ展開する原動力が生まれる。

【代表的な感想】「我が家の猟師さんで昔の村を取り戻そう」

- ・どうしても被害を減らしたい。狩猟免許を取るぞ。(70代男性)

【代表的な感想】全体

- ・これなら出来るかなと、皆で取り組めそうだなと思った。(50代女性)
- ・お年寄りのやる気に驚かされた。負けていけない！と思いました。(40代女性)

2 八重集落の集落元気づくり

【第3段階】自ら実行する意志（第3回ワークショップ）（その1）

①四面会議を用いた取組への合意形成

○「誰が」「いつ」どの取組を行うのかの話し合い。



一体的な取組を目指すため集落活動単位（消防団、女性部、執行部）に分かれた全体討論

プロジェクト毎の取り組みを一つ一つチェック

結果

○集落内の既存の実行単位での議論としたことで、年配者の知恵・経験に圧倒されながらも、相互への期待も語られ、参加者のやる気を引き出すことにつながった。

【代表的な感想】

・今の私達に出来るのだろうか？という事を考えさせられました。何をするにも限界が有ったり、でも出来るゾ！というところまでの発見もあり、この三回の収穫は大きいです。（40代女性）

課題等

○自分たちではできない課題にぶつかった時、人的支援や助成制度などの支援策として助言できるアイデア（情報）の充実が必要である。

②ここから始めます！！

○自らの力で実施できる取組を優先（難易度による実行期間の分類）。



光男さくらの下に既に挿し木済み

今年から対岸でバーベキューをしよう

結果

○先ずどこから手がけるのか、できるところからやろう、という気運が高まり、結果として、とにかく「集落の行事にしよう」という実行性の高い提案が出された。

【代表的な感想】

・地域の人たちの意識、気付き、見方などに少しでも変化が見られたようで良かった。これが全て良かったってことにはならないかもしれないが、きっかけづくり的にはとても良かったと思う。又、総会前のこの時期というのが、より良かったと思う。（30代女性）

課題等

○“金にならなきゃ、やってる暇がない”というような意見もあり、資源活用の知恵や情報、助っ人が必要である。

2 八重集落の集落元気づくり

【第3段階】自ら実行する意志（第3回ワークショップ）（その2）

③集落の全体目標の共有化

○まずは、ミツマタの栽培と植え付けからスタート。

八重集落の集落元気づくりテーマ

「みんなで つくって まもろう たから ～とてあえずミツマタ～」



最後に所信表明する人も

「みんなで責任を持ってやろう」



ミツマタの花

まずはミツマタの栽培と植え付けからスタート



光男さくらのライトアップと今年の花見は消防団が主催(3月19日撮影)



あいにくの天気だが準備

バーベキューで楽しむ



夜桜のライトアップ試験

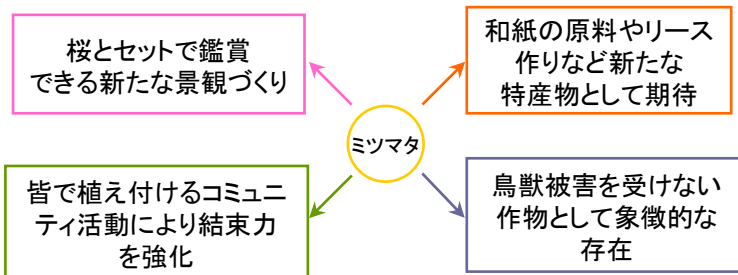
(3月22日消防団撮影)

結果

○暮らしの不安解消への様々なアイデアが話しあわれる中で、全てのテーマを全員で共有し、集落活動の参加者の目標を“ミツマタ”に結実させることができた。

【代表的な感想】

- ・これからの八重を思うことができた。(30代男性)
- ・生き甲斐を感じます。是非成功したいです。(70代男性)



八重集落のミツマタを中心に地域内資源の複合活用

課題等

- 実際にやろうとすると難しい課題が出てくるが、それを解決するためのツール(ネット利用や効果的な事例、制度紹介)の提供が必要である。
- 自分たちによる解決力を高めること、高められるという自信を持てるように導くことが必要である。

【代表的な感想】

- ・実行となるとなかなか難しい事が多いな、と思いました。現実にはなかなか...です。(30代女性)

3 八重集落の集落元気づくりのまとめ

- ・集落元気づくりは、参加の場の創出に始まり、元気づくりの実現に至るまで、5段階で整理される。
- ・集落元気づくりの段階と各段階において得られた成果をまとめた。

集落元気づくりの段階

WS開催状況と内容

WSで得られた課題

第0段階
参加の場の創出



WS事前準備

- ①住民への参加の呼びかけ
- ②区長への挨拶と予備調査
- ③全世帯アンケート調査

- 定量的な統計データのみでは得られない集落実態の把握が不可欠である

第1段階
気づきの誘発



第1回WS

- ①グループ分け
- ②現在と将来の人口構成は？
- ③集落の他出者の実態
- ④集落の不安と資源

- 子どもの進学による教育費負担増や、医療や公共交通の不足への“対応や支援”を今後検討していく必要がある

第2段階
集落元気づくりの方向性



第2回WS

- ①参加者が希望する集落元気づくりテーマ
- ②先行事例の紹介による情報提供
- ③プロジェクト立案

- 年配者や男性からの意見が強く、若い人や女性などからの発言が少なくなってしまうことへの配慮が必要
- 先行事例の紹介にあたっては導入の経緯や工夫等についても紹介する必要がある

第3段階
自ら実行する意志



第3回WS

- ①四面会議を用いた取組への合意形成
- ②ここから始めます！！
- ③集落の全体目標の共有化

- 自分たちではできない課題にぶつかった時、人的支援や助成制度などのアイデア(情報)の充実が必要である
- 資源活用への知恵や情報助っ人が必要である
- 自分たちによる解決力を高めるツール(ネット利用や効果的な事例、制度紹介)が必要である

第4段階
元気づくりの実施